

令和元年度「支え合いを育む人づくり支援事業」事業実績

										(申請団体順)					
申請高校・大学名	グループ名	教育・研究活動名	指導責任者名(教員名)	参加生徒・学生数	協働する市民活動団体名	主な活動内容及び実績	活動期間及び報告会	活動内容(分野別)							
								高齢者	子ども	障害者	防災	その他			
1	関西大学	近藤誠司研究室	災害時要配慮者に関する防災支援・交流プロジェクト	近藤 誠司	32人	尼崎市難病団体連絡協議会	難病患者・障害児者などの家庭では防災対応に苦慮しているため、学生が要配慮者と交流し、防災意識や災害対応力を向上するための支援方法を検討し、市民向け防災情報発信のために尼崎難病患者団体連絡協議会と共同して難病患者・障害児者の「個別避難カルテ」(ぐっど・もっとカルテ)を製作し、防災講演会やシンポジウム等での報告を行ったほか、FMあまがさきにおける防災福祉ラジオ番組「防災アイアイ」の製作を通じた独自の情報発信を行った。	活動期間:5月～2月 報告会:12月15日					○		
2	兵庫県立 尼崎小田高等学校	看護医療・健康類型「看護医療基礎」	「防災・減災 災害弱者・福祉避難所」と「看護・介護の地域連携・看取りについて」「子どものすやかな育ちについて」-地域社会で高校生に何が出来るのか?	福田 秀志	30人	コスモシティ尼崎自治会	将来、看護・医療職に就くことを目指している生徒が、災害時に配慮が必要な方に対する支援の必要性について、市民に啓発するためのカレンダーの作成やFMあまがさきでの情報発信・あまおだ減災フェスの実施・イベント等での要援護者支援劇の公演・福祉協会の防災訓練の参加を通じて支援の必要性を訴えた。また、生徒が地域の介護・医療に関心を持ち、アドバンス・ケア・プランニングの必要性や在宅療養等について、ワークショップや劇の上演を通じて地域住民と一緒に考える機会を持った。 新たな取組としては、地域の商店街と協働し、子ども向けイベントの実施や絵本の読み聞かせ等、子どもの支援事業を実施した。	活動期間:4月～2月 報告会:1月25日			○		○		
3	園田学園女子大学	田窪ゼミ	尼崎市の子育て支援について学ぶ-未就園児親子とのかかわりを通して-	田窪 玲子	6人	特定非営利活動法人 やんちゃんこ	NPO法人やんちゃんこが、つどいの広場事業として開催している「わいわいステーション」で、将来、教育や保育の現場に携わりたいことを希望している生徒が、「地域で求められている子育て支援とはなにか」をテーマに活動を行った。活動の中で、乳幼児にはふれあい遊びや絵本の読み聞かせ・クッキング等を、保護者にはふれあい遊びの意義をまとめた手作り紙芝居を行い、地域との関わりや子育て支援について理解を深めた。また、子育て世代の実態についてアンケート調査を実施した。	活動期間:5月～12月 報告会:1月8日			○				
4		江崎ゼミ	地域と大学の宝が、活動を通して、共に学び育つ	江崎 和子	8人	NPO法人スマイルひろば	将来、養護教諭志望の学生が児童生徒理解のため、不登校・学校不適応児童生徒の予防・対策として、子どもたちの居場所づくりを進めるNPO法人スマイルひろばが実施する「スマイルカフェ(中学生対象)」や「す〜ちゃん食堂(主に小学生対象)」の活動に、実際に子どもたちとの関係性を結ぶために参加し、参加する子どもたちやスタッフと一緒に居場所づくりを実施した。	活動期間:5月～12月 報告会:1月8日			○				
5	関西国際大学	SL-B(子ども食堂)	SL-B(子ども食堂からみる孤食と貧困問題)	上原 昭三	23人	・NPO法人スマイルひろば ・子ども食堂「いこいこ!庵」実行委員会	尼崎市内の4か所(NPO法人スマイルひろば、戸ノ内社会福祉連絡協議会 いこいこ庵、にじっ子タやけ食堂、うさぎや)の子ども食堂に参画し、学習支援や通っている子どもたち・スタッフの方々との関わりから、地域における子ども食堂の意義や設立の背景、子どもたちの実態と家庭の問題について触れ、大学生としての「子どもの居場所支援」や「不登校の見守り方」などについて考えた。	活動期間:4月～12月 報告会:12月7日			○				
6		椋田ゼミ	地域と育む幼児教育実践	椋田 善之	12人	一般社団法人ポノプレイス	将来、教育職に就く学生の幼児教育のスキル向上と子どもの心身の発達における幼児教育の役割や認識を深め、地域の子どもの実態や食育の重要性、保育園・幼稚園・小学校段階の子どもを取り巻く今日的課題について検討した。協働先の子ども食堂では、絵本の読み聞かせや異年齢交流を実施し、活動の中で地域ぐるみの子育て支援や子どもの育ちを見守る大切さを感じ、自分たちができることについて話した。	活動期間:4月～1月 報告会:12月7日			○				
7		SL-B(福祉)	SL-B(障害者施設とのコラボレーション利用者との楽しい時間を作るプロジェクト)	岩本 裕子	16人	・社会福祉法人福成会	教育福祉学科1年生が、障害者の3つの事業所(サポートセンター・まつば、あいあい、チャレンジ・コヤリバ)をフィールドとして、施設の職員や利用者や交流を図り、多様な理解を深めた。また、ソーシャルインクルージョンの実現の一環として、履歴書記入の補助(就労移行)や企業商品の梱包(就労継続支援)、ヨガや調理実習(自立訓練)の活動などを共に実践する中で、大学生としてのできることの意味をまとめた。尼崎市民まつりや大学祭においては、障害者に対する理解は「普通のこと」として伝えた。	活動期間:4月～1月 報告会:12月7日				○			
8	福祉学専攻インターンシップ	福祉のまちづくりプロジェクト	山本 秀樹 尾崎 慶太	24人	企業組合はんしんワーカーズコープ	学生が「子どもの居場所」を基軸とし、三和商店街にあるスペースを活用した「くるむんハウス」を毎週土曜日の午後で開催した。この企画は、前年度のフィールドワークにおいて子どもが十分に遊ぶスペースがないという意見に応え、企画提案と改善を繰り返し、子どもたちが通学していない時間に過ごすことができる地域の中での居場所の確保につなげた。また、放課後ティサービスkakeruに通う障害のある子どもとその保護者同士のつながりを持つため、イベントを開催し交流につなげた。	活動期間:4月～12月 報告会:12月7日			○			○		
9	国際コミュニケーション学部	SL-B(「いのち」を考える～阪神・淡路大震災の記憶を通して～)	横山 雅彦	30人	地域を結ぶ笑顔の会	阪神・淡路大震災の記憶を通して、講師からの実体験を聴くことで、いのちの尊さや防災の大切さについて学生同士で話し合った。また、尼崎市内の被災者への「傾聴」前に講義を受け、共感的態度を学んだが諸事情により実現できなかった。しかし、明石市内の被災者と交流し、災害対策について共に考えた。	活動期間:10月～2月 報告会:12月7日	○				○			
10	武庫川女子大学	吉井ゼミ	子どもたちと共に防災・減災を考えよう-地域における大学生の役割を考えて	吉井 美奈子	10人	モコモコ倶楽部	尼崎市の子どもたちに防災・減災の意識をつけてもらおうと、被災した時の必要物や防災食などの情報収集、また、子どもたちに向けて楽しい防災・減災活動を目指すための「防災ダンス」を考案しYouTubeで公開した。さらに、モコモコ倶楽部周辺地域の防災マップを子どもたちと一緒に作成し、大災害が起きた場合にとのよう逃げたらよいか一緒に考える機会を提供した。それらの取組をまとめたハンドブックを作成し、子どもたちや学生に配布するとともに、尼崎市で開催した「防災×福祉セミナー」ではポスターにして発表した。	活動期間:5月～3月 報告会:1月23日			○		○		
11	兵庫県立 阪神特別支援学校 分教室	WORK(喫茶サービス)	喫茶サービス活動を通じた地域活動への参加・交流	阪本 佳寿子	30人	・武庫第10連協 ・時友団地連合会	障害のある生徒が昨年度に引き続き、時友団地集会所でふれあい喫茶の活動を通じて就労観につなげるとともに、接客技能や社会性の向上を図った。また、ふれあい喫茶から活動が広がり、武庫地区内の「まごころ茶屋」や「清流園」でも地域住民との交流や地域コミュニティの活性化に寄与した。	活動期間:5月～2月 報告会:2月7日						○	
12	兵庫県立 尼崎高等学校	尼崎学・JRC部	高校内居場所カフェプロジェクト	田畑 北斗	30人	NPO法人スマイルひろば	経済格差、社会的・文化的格差を是正するため、高校内に外部とつながる居場所をつくり、地域との交流のきっかけづくりを生徒が居場所カフェを運営するという形で行った。NPO法人スマイルひろばの協力や、赤ちゃんとその母親にも参加してもらい、子育て中のお母さんへの相談なども居場所カフェの中で行った。	活動期間:4月～2月 報告会:2月12日			○				
13	兵庫県立尼崎北高等学校	芸術鑑賞部	地球・地域とつながる共生ライブ	吉田 英一	53人	うさぎ屋	生徒が地域住民と地域における共生社会のありかたを考え、子ども食堂の参加者と工作教室や学習支援に加え、高校生が小学生に楽器を教えバンド演奏を行うという企画を立ち上げ実行した。また、高校生と地域住民の間で地域に密着する取組として、地域の保育所や高齢者施設での音楽ライブ、または、高校に保育園児等を招待してのライブ、福祉協会の清掃への参加、エコアマフェスタの運営の手伝いライブでの出演等を行い交流した。	活動期間:4月～3月 報告会:中止 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため)	○	○					
14	関西学院大学	人間福祉学部社会起業学科	社会起業プラクティス	田原 慎介	14人	生島西連協上ノ島野上東町会	学生が、地域に残る社会課題を解決する社会起業家としての必要な知識と行動力を習得するために、2018年度から地域の福祉協会と協働して実施してきた高齢者向けヒップホップダンスの継続とともに、高齢者が自主的にダンスを実践できるようDVDを製作し贈呈した。また、「塚口北地区まちづくりフェスティバル(親子向けイベント)」や「ヘルスアップ講演会(高齢者向け事業)」に参画し、地域へヒップホップダンスを広げ、多くの地域住民と交流した。	活動期間:8月～2月 報告会:	○	○					
15		国内ボランティアサークルつなぐ(三田キャンパス)	子ども食堂	子ども食堂	村瀬 義史	26人	塚口総合センター女性部会	学生が貧困問題や孤食を解消するために、子どもたちとその家族などに昼食を提供する「せんつか食堂」を塚口本町社会福祉連絡協議会女性部や野菜等の提供を受けた事業者等とも含めて協働し、多世代交流の機会と居場所づくりを実施した。活動を通じて、参加者個々の事情に対して理解を深めるとともに、学生一人ひとりが主体的に子ども食堂の運営に携わることができるようになった。年度後半には、参加者に対してのお菓子作りイベント等を企画したが、コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	活動期間:4月～2月 報告会:中止 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため)			○			
9校		15グループ			344人	17団体					3	11	1	4	2